

## テーマ5 親子のコミュニケーション

### 【ねらい】

思春期の入り口である子どもの心の動きをコミュニケーションによって探るポイントを学ぶとともに、丁寧な親子のコミュニケーションを積み重ねることの大切さに気づく。

### 【活動の流れ】

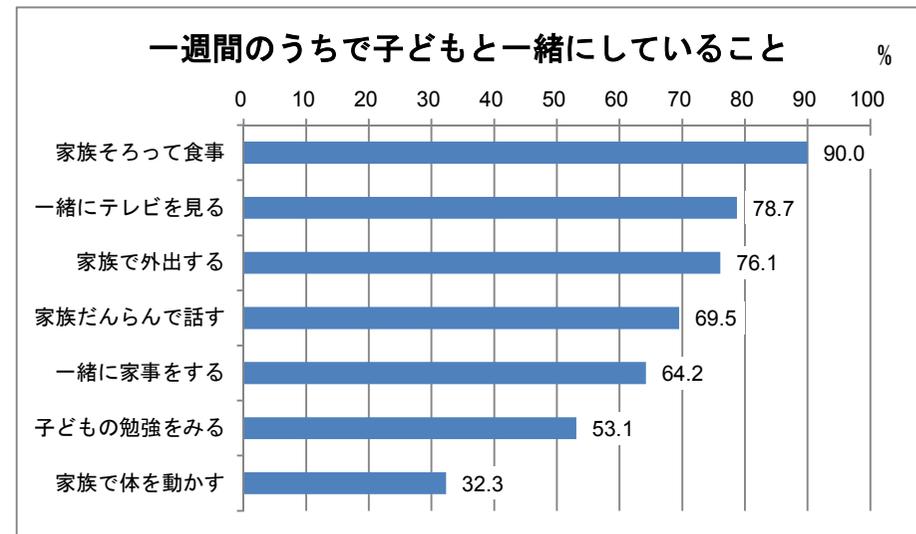
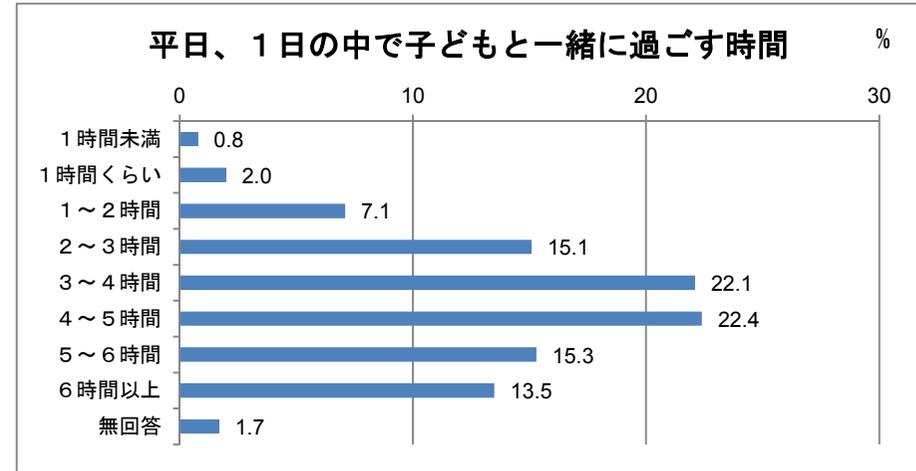
- 1 事例を読み、親自身の思春期時代に経験した心の葛藤について、思い出すことをワークシートに書く。
- 2 親自身の経験と重ね合わせ、子どもがイライラしているときのコミュニケーションのとりかたについての思いを4つから選び、理由をワークシートに書く。
- 3 書いた理由を発表し、話し合う。
- 4 話し合いの中から、子どもの心の動きを探るポイントをワークシートに書く。
- 5 書いたことを交流する。
- 6 話し合いのまとめをする。

### 【支援のポイント】

- 思春期時代を経験した親自身の心の葛藤を思い起こさせるように、ファシリテーターが自身の心の葛藤を事例的に話すように努める。
- 思いを話し合う中で、見守ることと放っておくことの違いについてもふれる。
- 子どもの力を信頼し、見守り任せていくことは、親が手出しをするよりずっと難しく愛情がいることであるが、あきらめることなく根気強く見守っていくことが大切であることを知らせる。
- コミュニケーションをとる場合、事細かに指示を出すのではなく、子どもの意向を聞きながら、丁寧に会話を積み重ねていくことが大切であることを伝える。
- 子どもに権利を認めたらうで、成長に応じた権利の使い方を教えていく必要性や、子どもだからと黙らせていては、子どもは自分で判断し表現する力を培うことができないことを伝える。

## 【参考資料】

対象：小学5年生保護者（全国）



【平成28年度 教育に関する保護者の意識調査報告書（公社）日本PTA全国協議会2016】